

2003年12月19日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5815 FAX.03-3661-5134
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-5614-1078

2003年情報機器関連市場の調査まとまる

- 全体市場は、2010年、9兆9,000億円規模(対'02年比13%増)に拡大と予測 -

マーケティング&コンサルティングの株富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表良吉 TEL:3664-5841)は、8月から11月の4ヶ月間に亘りコンピュータ・OA機器およびコンピュータ周辺機器の市場動向を総合的に調査した。このほどその結果を報告書「2004情報機器マーケティング調査総覧(上・下巻)」にまとめた。

調査対象製品は、上巻では、1.コンピュータ(18品目) 2.ディスプレイ(5品目) 3.専用端末・システム(8品目) 4.OA機器(5品目) 5.アプライアンス機器(11品目) 47品目の調査結果を収録した。

また、下巻には、1.入出力機器(14品目) 2.外部記憶装置(10品目) 3.外部記憶媒体(8品目)、4.ボード・カード(3品目)合計35品目の調査結果をまとめた。

<調査のまとめ>

市場の概要

1. コンピュータ/OA関連機器市場

2002年全体市場規模6兆8,344億円、2010年予測7兆1,165億円('02年対比4%増)

1) 全体市場規模推移 2003年は、長引く不況の影響を受け企業ユーザーにおける情報化投資抑制傾向が依然として強く、これまで情報機器市場を牽引してきたコンピュータおよびOA機器の市場が低迷したことによりマイナス成長となっている。特にOA機器についてはデジタル化の進展や複合機への機能統合などにより単体製品としての存在が困難な製品も出てきているなど、長期的にもマイナスで推移することが予測される。

2) コンピュータ

2002年全体市場規模3兆2,042億円、2010年予測3兆338億円('02年対比5%減)

汎用コンピュータやオフィスサーバなど、独自OS製品では近年の企業システムにおけるオープン化の進展により他のカテゴリー製品に需要を侵食され、マイナス成長が続いている。またインターネットビジネスの拡大に伴いオープン系システムニーズの高まりにより成長してきたオープン系サーバも、需要の一巡や情報化投資抑制の影響を受けたことで成長率も鈍化するなど、コンピュータ市場を取り巻く環境も厳しさを増している。一方で近年のオープンリソースに対するニーズの高まりを背景にサポート体制拡充など、ベンダ側での取り組み強化が進むLinuxサーバ市場が好調である。

3) ディスプレイ

2002年全体市場規模1,782億円、2010年予測2,944億円('02年対比65%増)

低価格化の進む液晶ディスプレイ(LCD)需要がCRT式に代替して好調に推移していくと見られる。LCDは他のディスプレイ同様に大画面化が進められており、主流製品は15インチから17インチへとシフトしている。このほか大画面ディスプレイとしては、今後、デジタルポスター需要などを取り込んでいくことでプラズマディスプレイ(PDP)市場の大幅な伸長が見込まれる。

4) 専用端末

2002年全体市場規模2,221億円、2010年予測2,864億円('02年対比29%増)

販売時点情報管理端末(POS)や携帯端末は代替や増設需要などにより今後も安定した成長が続くと見込まれる。この他、電波方式認識(RFID)関連製品については今後の本格導入により大幅な成長が期待できる市場といえる。

5) アプライアンス機器

2002年全体市場規模1兆8,964億円、2010年予測2兆7,377億円('02年対比44%増)

これまで大幅な市場成長を遂げた携帯電話も近年加入者が頭打ちとなっている。成長率も過去の実績ほどは見込めないものの、第三代携帯電話やカメラ付などの付加機能により買換え需要を獲得することで安定成長を遂げるであろう。その他アプライアンス機器としては、地上波デジタル放送の開始に伴うデジタルテレビ需要やホームネットワークの中心となるであろうホームサーバ、家庭用ゲーム機などいわゆる

「デジタル家電」製品の伸長が予測される。

2. 周辺機器市場

1) 入力装置

2002年全体市場規模4,470億円、2010年予測5,494億円('02年対比23%増)

カメラ付携帯電話は高画素化の進展により100万画素程度の需要は低迷しているが、300万画素を中心に買い替え、買い増し需要が旺盛であることや400万画素以上の高画素モデルが好調で引き続きこの市場を牽引している。またマウス、キーボードなどもパソコンにおける入力デバイスの必要不可欠な製品としてOEMを中心に安定した需要がある。一方スキャナは、インクジェットプリンタの複合化が進んでおり、こうした複合製品需要に侵食されマイナス推移となる。

2) 出力装置

2002年全体市場規模4,243億円、2010年予測4,532億円('02年対比7%増)

コンシューマ向けのインクジェットプリンタ需要の一巡などが見られたが、スキャナやコピー機能を付加した複合製品が台頭している。デジタルスチルカメラの普及を背景とし、家庭で写真プリントを実現する製品としてインクジェットプリンタの複合機需要が拡大してきたと見られる。またビジネスユースでは、カラーレーザー需要が堅調であったほか、モノクロレーザー市場が高速性をメリットにリプレース、増設需要などを取り込み拡大している。

3) 外部記憶装置

2002年全体市場規模8,657億円、2010年予測1兆2,477億円('02年対比44%増)

大企業を中心に、企業ネットワークの進行により増大を続けるデータについて、バックアップの重要性、分散化したストレージの統合とデータの効率活用などの点でストレージシステムへの見直し意識が高まってきており、それとともにディスクアレイ市場も順調に拡大している。コンシューマ向けでは、パソコンのAV機能の拡張により画像データなどを取り扱うケースが増え、大容量の書込み・書換え可能DVDドライブ市場がCDに代わるドライブとして急速に拡大している。

4) 外部記憶媒体

2002年全体市場規模2,108億円、2010年予測5,245億円('02年対比149%増)

企業のストレージ需要としてディスクシステムへと移行が見られる。バックアップなどの用途ではテープ製品の役割、重要性がさらに高まっていくと見られ、データテープ需要は今後も根強いと思われる。コンシューマでは、DVDレコーダやパソコンにおけるDVDドライブの標準搭載によりこれまで記録メディアとして普及してきたCDに代わりDVDメディアの台頭が本格化している。一方でこのDVDメディアの台頭を受け、これまで大容量メディアとして注目されてきたZipやMOなどの製品は今後終息に向かうと見られる。フロッピーディスクに代わるメディアとしてUSB対応メモリや小型メモリーカード市場の伸長が今後予測される。

<調査の背景>

2003年度上半期(4月~9月)の国内パソコン本体出荷実績は数量ベースで対前年度同期比13%増の515万1,000台(電子情報技術産業協会発表)となり、プラス成長となった。金額ベースでは対前年同期比3%増の7,968億円と低価格化の影響を受けたもののプラス成長となった。その要因は、ビジネス市場においてはIT投資促進税制が施行されたことを背景に、リプレース及び増設需要が持ち直してきている。一方コンシューマ市場においては相変わらず個人消費の低迷が続いているものの、映像や音楽といったAV用途の拡大や製品ラインアップの拡充により需要回復しつつあることが挙げられる。

移動体電話(携帯電話/PHS)も2002年11月に18ヶ月ぶりにプラス成長に転じて以来2003年7月まで9ヶ月連続で前年同月を上回り、なお且つ2003年3月以降5ヶ月連続で400万台の大台を超えた。2003年10月末時点の累計加入者数も7,894万人と前月比0.4%の増加を維持している。こうした加入者の増加は、基本的に買い替え需要が中心と見られるが、第三代への買い替えやカメラ付き携帯電話への買い替えが引き続き大きく需要を牽引していると考えられる。

世界のパソコン市場に関しては2001年~2002年にかけて市場が停滞しマイナス成長を余儀なくされた。2003年に入って世界市場特に欧米市場ではビジネスユースにおけるリプレース需要やコンシューマ需要が大きく牽引し再び成長軌道に乗る様相を見せている。またアジア市場はSARSの影響により中国市場が一時的に停滞することとなったものの、その潜在需要は計り知れないものがある。日本市場もコンシューマ需要の回復は遅れているものの、ビジネス需要が牽引し若干ではあるが回復の兆しを見せつつある。しかし世界市場における景気の先行きに関しては未だ不透明であり、パソコン市場の安定した成長と需要のさらなる拡大については引き続き注意深く見守る必要がある。

21世紀に入って情報機器を取り巻く環境（成熟市場化、需要低迷および汎用製品の低価格化などによる収益率悪化）がますます厳しい状況となっている。しかし、日本国内ではADSLや光通信接続（FTTH）などのブロードバンド通信技術の環境が急速に整備され、次世代情報機器市場は、このブロードバンドをキーポイントとして、新たな製品あるいはサービスの需要が創造されていくであろう。

< 報告書の構成 >

上下巻とも、総括編と、個別製品編の2編構成。

総括編では、まず5つの製品分野に分けて2002年から2006、2010年までの市場規模を予測した。更に、各分野の製品別推移、メーカー別市場シェア、製品別の市場動向などを概説した。

上巻の個別製品編は、コンピュータ(18品目)、ディスプレイ(5品目)、専用端末・システム(8品目)、OA機器(5品目)、アプライアンス機器(11品目)の各製品別に、主要/注目メーカーの動向、国内およびワールドワイド市場規模推移(2002年～2010年)、国内市場メーカーシェア、今後の市場見通しなどを詳しく説明した。

下巻の個別製品編では、入出力機器(14品目)、外部記憶装置(10品目)、外部記憶媒体(8品目)、ボード・カード(3品目)の各製品別に、上巻と同じ項目について詳しく説明を行った。

< 調査内容/調査項目 >

1. 対象製品の定義・カテゴリ
2. 市場概況（過去2～3年間の動向）
3. 主要注目メーカーのマーケティング動向（過去1年間における主要メーカーの製品/販売/サービスサポートなど各種戦略状況）
4. 市場規模推移
 1. 2002年：実績 2003年～2006年、2010年：見込み、予測
 2. 数量/金額ベース
 3. 国内（輸入含む）/輸出マーケット
5. メーカー別市場占有率推移（国内マーケット）
 1. 2002年：実績 2003年：見込み
 2. 数量/金額ベース
6. 製品トレンド
7. ワールドワイド市場規模推移
 1. 2002年：実績 2003年～2006年、2010年：見込み、予測
 2. 数量ベース
 3. エリア別：日本/アジア・オセアニア/北米/欧州/中南米/その他（中近東/アフリカ等）
8. 今後のマーケット動向/需要見通し
 1. 市場拡大要因/成長阻害要因
 2. 今後の需要及びマーケットの方向性
9. 主要参入メーカー/機種一覧（現状市場投入している最新機種の情報（機種名/標準価格/発売年月））

以上

「 2004情報機器マーケティング調査総覧 上・下巻 」

体 裁：A4判 上巻332P 下巻282P

価 格：上下巻各101,850円(税込) 上・下巻セット：193,200円(税込)

調査・編集：株式会社富士キメラ総研 第2研究開発部門

発行人：表 良吉

発行所：(株)富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5841 FAX 03-3661-7696

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL：<http://www.fcr.co.jp>